

# 桜井貞子 と紙布展

2022年1月19日(水) → 5月15日(日)



絹紙布風通緋紅梅織着物「満ちる春」  
1993年 公益財団法人日本伝承染織振興会蔵

会場 || 第1展示室

休館日 || 月曜日(ただし、3月21日(月・祝)、5月2日(月)は開館)、  
3月22日(火)

開館時間 || 午前9時30分～午後5時(入場は4時30分まで)

観覧料 || 一般320(260)円、満70歳以上160(130)円、  
高大生260(210)円、小中生160(130)円

( )内は20名以上の団体料金。障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は指定難病特定医療費受給者証をお持ちの方及び付き添いの方(1名まで)は無料。2月26日(土)は70歳以上無料。長期休業期間を除く土曜日は高校生以下無料。●同時開催中の企画展チケットにて、本展もご覧いただけます。

茨城県陶芸美術館

IBARAKI CERAMIC ART MUSEUM  
〒309-1611 笠間市笠間2345[笠間芸術の森公園内]  
Tel.0296-70-0011 Fax.0296-70-0012  
URL:<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

# 桜井貞子と紙布展 2022.1.19(水) — 5.15(日)

SAKURAI Sadako's Paper Cloths

紙布は木綿の代わりに和紙による糸(紙糸)を織り込むことで作られる織物で、山陰や東北地方など木綿が貴重な地域で発展しました。特に宮城県の白石では、城主の片倉家が産業として奨励し、武士の内職として発展しました。

水戸在住の紙布作家の桜井貞子(1929-)は、当初、佐賀錦を制作していましたが、1977年に白石紙布に出会い、試行錯誤の末、その技術の再現に成功しました。桜井氏の紙布は紙を原料としますが、一流の職人が漉いた、きめ細かなもの以外は使えないことから、紙布として完成するまでに長く根気のいる作業が必要となります。織の素材となる紙糸は茨城県内の西ノ内和紙や、新潟、山形で生産された和紙等を厳選して素材としています。これらの和紙を裁断したあと、平たい石の上で切った和紙を揉むことで紙糸は生み出されますが、その工程全てが桜井氏一人の手で行われています。

紙糸を用いた織物は通常、経糸に絹、綿、麻糸を用い、紙糸は緯糸に用います。こうしてできあがる紙布は、経糸の素材ごとに絹紙布、綿紙布、麻紙布と呼ばれます。これらの他に諸紙布と呼ばれるものがあり、これは経緯共に紙糸を使用するため、制作について非常に困難が伴い、桜井氏の細い紙糸を作る技術があって、はじめて制作が可能となるものです。こうして生み出される紙布は、紙の特性として通気性がある上に、軽くて手触りも良く、さらに紙の繊維の結びつきによって丈夫なことから洗濯が可能で、着物のみならずシャツ等のさまざまな用途に仕立てることができます。

本展では90歳を過ぎた現在も、紙布の可能性を追求し新たな挑戦を続けていく、桜井貞子氏の業績の一端を伝えます。

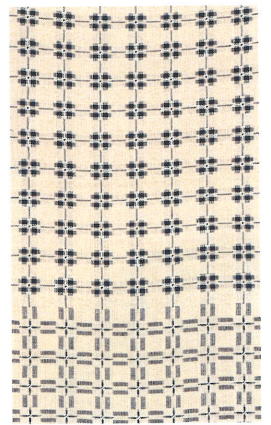
※会期中、作品は展示替えを行います。



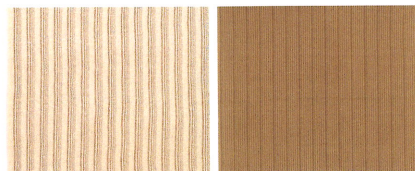
紙布の制作風景



絹紙布風通緋紅梅織着物「正氣の詩」1992年



諸紙布風通緋帯 2000年頃



縮緬絹紙布「秋涼」1996年※ 絹紙布「枯茶」1983年※ 絹紙布 1989年

※は公益財団法人日本伝承染織振興会蔵。それ以外は作家蔵。



## 桜井貞子 略歴

1929年に東京都に生まれる。最初は佐賀錦を学び、1977年より紙布を始める。日本伝統工芸展を中心に出品し、個展、グループ展も多数開催している。また紙の博物館や茨城県陶芸美術館等でも作品が紹介されている。2016年には第36回伝統文化ポラ賞地域賞を受賞。

## 北澤美術館名品展 エミール・ガレとドーム

2022年 2月5日(土) ~ 5月8日(日)

北澤美術館は、19世紀末のアール・ヌーヴォーを中心にフランスガラス工芸の名作を所蔵する美術館として国内外に知られています。本展では、その中からエミール・ガレとドーム兄弟の初期から晩年までの名品を紹介し、魅力に迫ります。

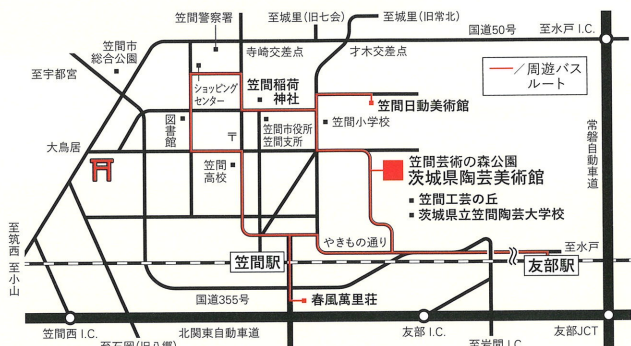


エミール・ガレ  
脚付杯「けし」 1900年 北澤美術館蔵

## 交通のご案内

【電車】JR常磐線で上野~友部駅(特急70分)→友部駅から「かさま観光周遊バス」(料金100円)で15分もしくは友部駅でJR水戸線に乗り換え笠間駅(9分)下車し、笠間駅からタクシーで5分

【車】北関東自動車道、友部インターから10分、笠間西インターから15分/常磐自動車道、岩間インターから25分、水戸インターから30分 駐車場：笠間芸術の森公園駐車場(300台)をご利用ください。※会期中、芸術の森公園内でイベント(陶炎祭など)がある場合は、駐車場が有料になります。観覧会をご観覧いただく方で、返金対象の駐車場(公園内北・南・東駐車場に限る。)をご利用の場合は、美術館受付で返金いたします。



展覧会や関連企画の情報は、茨城県陶芸美術館ウェブサイトでご覧いただけます。

同時開催企画展